

# 眼と性感染症について

宮崎中央眼科病院

感染管理認定看護師 石井健裕

性感染症で眼に症状が出現するものがあることをご存知でしょうか？

眼の調子がおかしいなと思い、眼科を受診してみたら実は性感染症が眼に移っていたという事例は実際あります。性感染症に気がつかないことで、眼の感染症の原因の発見が遅れ、重度の障害や失明してしまう恐れがあります。

疾患名	感染経路	潜伏期間	症状
成人型封入体結膜炎 (クラミジア結膜炎)	接触感染	1週間	充血 黄色で粘度の高い眼脂 下瞼の裏にドーム状の隆起が多数
新生児封入体結膜炎 (クラミジア結膜炎)	産道感染	5~12日 生後30日以内	充血 黄色の眼脂 偽膜(瞼の裏に白い膜)
淋菌性結膜炎 (小児・成人)	接触感染	1~2日	充血 瞼のはれ クリーム状の眼脂
淋菌性結膜炎 (新生児瞼漏眼)	産道感染	生後2日~5日	適切に治療を行わなければ 角膜に穴があき失明する恐れあり
後天梅毒 強膜炎・角膜実質炎・虹彩 毛様体炎・ぶどう膜炎等	接触感染	第2期 梅毒感染後 3ヶ月~3年	充血 視力低下 眼痛



充血



ドーム状の隆起



クリーム状の眼脂

## 【対策】

性感染症の原因となる病原体は性器やその周辺・口・体液(精液・膣分泌液・血液)に含まれており、主に性行為によって粘膜から感染します。眼は粘膜で覆われている組織ですので、病原体がついた手でそのまま眼を擦るなどにより、眼の粘膜に病原体が接触し感染します。

眼への感染を防ぐには、

- ・こまめに石鹼と流水で手に付着した病原体を洗い流す
- ・性行為中に精液が誤って眼に入ってしまったらすぐに洗い流す

ことが大切です。

また、家族やパートナーへの感染拡大を防ぐことも重要です。パートナーには性感染症の検査を勧め、早期に治療を開始して感染拡大や後遺症を回避することが重要です。